



発行所：ほかにわ共和国
発行責任者：志賀俊紀
編集責任者：ほかにわ広報部

また会えてよかったね

理事長 志賀俊紀

二十周年はあつという間の時間だった。十三年前に食道癌を患い、三年前は軽い脳梗塞発見が早く一か月のリハビリで元気になった。将にいのちにご縁がある男である。

元々七か月の未熟児として生まれ、近所のおばさんたちは「育てば枯れ木に花ですタイ」と父幸村に熱い声援を送っていたと聞いて育った。



南有馬の聖マリア観音ホール前にて 創立20周年記念祝賀会後、多摩ファミリーシンガーズ ピアノカによるマリア像への献歌コンサートが行われた



父幸村が神社の杜に季節保育所を創設した時は私は小学一年生だった。父とは四十六歳の年齢の差があり、知的障害児あけぼの学園が創設された時、私は高校一年生だった。その時ダウン

症の五名と邂逅したのである。従って、ほかにわ共和国二十周年の前史が六十二年あることになるがこの道を五十八年歩いている。ピリーバンバンの「僕らはいつも片方の靴」の原風景である。

ほかにわ共和国は成人式を迎えた若者になった。まずは一つの目的地点に達したといつてよい。それはマラソンに例えれば「中間点（折り返し）」であろう。今から四十数年前、八雲寮は別府大分毎日国際マラソンに出場し、二名の完走者を出した。当時は障害者がスポーツに親しむ環境ではなかった。現在のように身体障害者がアスリートという認識はなかった。

一九八一年は国連が掲げた国際障害者年十年のスターラインの年であった。一九八五年八雲寮の文化活動推進のため、「穂観庭文化構想」が八雲寮創設から十年目に論文で言語化された。ほかにわ共和国の助走である。私はわが国における知的障害施設の事業展開のステージを「起・承・転・結」の五年毎の二十年で形成されていると認識している。こうした由縁を持つ「ほかにわ共和国」は、開設から約三十五年に当たる平成十七年十一月十一日に新たな誕生を迎えたが私は六十一歳であった。六十七歳の時食堂癌に罹り生死を彷徨うが命にご縁があり二十年の記念式典を迎えることができた。

しかも高山佳子先生は私の生還の喜びを楽曲「また会えたね」にして、多摩ファミリー

シンガーズが披露してくれた。式典の後の祝賀会のテーマは「またあえたね」で楽しい会となった。

創立二十周年記念式典に参加して

埼玉工業大学名誉教授 酒井 勝弘

誠に温かく和やかな式典でした。志賀俊紀君の天性的発露の「トシキスマイル」の中に、二十年の節目で成し遂げ達成した穏やかな「ホトケスマイル」を感じました。志賀君は産土の串山に育つ我ら同窓の誇りです。

志賀君は、社会から疎外されていたダウン症の人達に寄せる御父君・志賀幸村翁の思いのロマンを引き継ぎ、地域に根差した社会福祉実業と並行して、志賀君自身が提唱した新しい視座に立つ福祉文化史に基づき、身障者に対する新しい歴史的認識・理解を希求すべく研究活動し、福祉事業をより高めに押し上げ発展させています。こうした志賀君独自の思いは御子息の常盤様に引き継がれ、御父君・幸村翁に始まる「ロマンの道」は Steady ONGOING...

酒井氏には祝宴で口笛演奏を披露していただきました。世界口笛大会シニアの部三位の腕前に一同聴き入りました。



御礼

11月4日、法人設立20周年記念式典・祝賀会をホテルシーサイド島原にて盛会のうちに終える事ができました。

遠方から多くの皆様にご参加いただき大変ありがとうございました。



ほかにわ共和国への思い

法人監事

平 光司



志賀理事長と同じロ加ライオンズで活動していますが、監事就任の要請があり早七年を過ぎました。

心地よい響きの「ほかにわ共和国」の法人名。幼いころ熊本の生家で近所の子と遊び、ともに育った光景が思い起こされ、法人が目指す理念そのものが、この名称になったであろうと推察できるのである。しかも、会議・監査を含め幾度となく施設に通い、職員・入所者の方々に触れ合う機会に恵まれ、その中で強く感じたことがある。それは「理念」の一つでもある「至誠通天」の志が施設内に隅々までいきわたっていることです。

入所者と接せられる職員の方々は日々の介助の中、誠実な心持で一人一人に接し「積小為大」の行いで、たゆまぬ努力を継続しておられる姿には本当に敬服する次第です。

この度、法人の皆様の努力の蓄積で本年度、設立二十周年の節目を迎えられました。今後とも「唯一無二、オンリーワン」ならんことを切に願います。

◆理事長のコメント、平光司さんの父上は、私がロ加LC四代会長の時の幹事をして頂いた人です。親子二代のエンジニアで研究心の旺盛な素晴らしい若き経営者であります。

わたしとあなたのエピソード

GH デイ雲柿の木 主任 園田翔一郎

今の事業所に異動した当初の
ことです。役職が付いて日が浅か
ったということもあり、ようやく
職員としての一役を担った気にな
っていました。しかし、実務はよ
そんなに甘いものではありません
でした。初めての職務も多く、
自分の経験不足を思い知らされ、
そんな時、後ろ向きな気持ちを察
した上司から指摘された言葉が
あります。

「役職が付いて、いきなりその仕
事ができるわけじゃなかとよ。今
は見習い期間たい」と言われて、
初心に返り、一から学ぼうとい
う気持ちになりました。また、あ
る時、「良か格好せんでよかとや
っけん。いい人にならんでよか
愚直にコツコツ」と子どものころ
のようにこつぴどく叱られ、首が
入れないへそ曲がりな側面もあ

「役職が付いて、いきなりその仕
事ができるわけじゃなかとよ。今
は見習い期間たい」と言われて、
初心に返り、一から学ぼうとい
う気持ちになりました。また、あ
る時、「良か格好せんでよかとや
っけん。いい人にならんでよか
愚直にコツコツ」と子どものころ
のようにこつぴどく叱られ、首が
入れないへそ曲がりな側面もあ



原口所長 と 園田主任

ANSWER
あなたとわたしのエピソード

まさか、業務指導をエピソードとフ
ランクに捉えられているなんて、や
っぱりあなたは、「Genius」です。
マリアのように優しい心を持ち
合わせていないとか、他人に興
味が無いと言われる私と、共に
働くクジ運の悪さに、嘆くしか
ない日々を麗しい言葉で紹介
できるあなただからこそ、良
き人間になって欲しいと願う
ばかりです。

「すみません」とだけ答える
のではなく、「でも、」とか「
いや、」とか言い返される
日をワクワクして待っていま
しょう。

(デイ雲柿の木 原口由紀子)

ほかにわ共和国創立20周年記念行事
…ドタバタの裏側

表紙でも触れているように、当法人は創立
20周年を迎え、式典に向けた準備が数か月前から
ドタバタと進められました。集められた8名の
プロジェクトメンバーで、式典部門、記念誌部門
に分かれて取り組みました。理事長の構想はも
う何年も前からあったようですが、あれもした
い、これもしたいという気持ちが溢れ、次から次
へ出てくるプランに、メンバーは四苦八苦。ど
れだけのことが実現できたかわかりませんが、
ひとまず記念誌が完成、式典も終わることが出来
、プロジェクトメンバー初め、全職員が感謝の気
持ちで一杯です。

座禅では雑念を払い、心を無にしない
といいますが、これがなかなか難しいで
す。心と体の健康の為、これからも続け
たいと思います。(八雲寮 高橋亮子)

「言うたごてせんとやっけん」と
上司に苦言を吐かせてばかりで
すが、何も言われないと不安にな
り、「見習い」卒業はまだ先になり
そうです。
しかし、いつの日か、先輩たち
のように自分の失敗談を後輩に
伝えることができるように、こ
つぴどく叱られる毎日なのです。

式典に参加された皆様へ
お渡しした『記念誌』と
『記念品』

理事長の熱い思いが、皆さまに
伝わっていると思います。

ほかにわ共和国
の動き

12/ 理事会

法人歳忘祭

1/ 新年研修会

記念誌の裏側

今回作られた記念
誌には、これまで法
人がしてきたことや
これから何をしてい
きたいかを詰めたも
のになっています。

そして、記念誌の裏
から始まるのは、理
事長が何年、何十年もか
けて書き溜めた障
碍者に関する論
文です。

売れたかなう

ワークネットやはた園芸班では、農作業に
行ったり、委託で公園や団地の除草作業を行
っています。いまの時期は綺麗な花を咲かせ
る為、移植作業に取り組んでおります。

地域の農家の収穫時期になると、施設外実
習に行き地域の方たちとの交流を深め、日々
頑張っています。

お困りの方、ご相談や依頼をお待ちして
おります。お問い合わせは下記まで。

ワークネットやはた TEL. 0957-87-5055



作業の様子

マイフォーム
マイコレクション

ヨガを始めたのは十年以上前になり
ます。婦人会のヨガ教室に参加してか
らです。ヨガマットを購入し、最初
はわくわくしながら一週間が待ち
遠しいような感じで通っていたの
を思い出します。

「あいたたた！」と言いつつも
硬い私としては休みたいと思
うときもありました。三日坊主
の私としてはよく続いたなあと
思います。諸事情で、ヨガ教室
をいったんやめていましたが、
知り合いのインストラクター
よりお寺だヨガと座禅の教室
があるので来ないかと誘われ
て、いくことにしました。お寺
で一時間半ヨガを行い、その
あと二十分間の座禅です。ど
ちらも心を落ち着かせ安定
させるという共通点があり
ます。

座禅では雑念を払い、心を無に
しないといいますが、これがな
かなか難しいです。心と体の
健康の為、これからも続け
たいと思います。(八雲寮 高橋
亮子)



普賢岳山頂の様子

自分の身は自分で守ろう！



八雲寮では偶数月に避難訓練を実施しています。今回は洗濯場からの火災想定で訓練を行いました。

実際に洗濯場の業務に携わっている職員にて初期消火、通報などを行いましたが、やはり訓練でも慌てる様子が見られ、日頃の訓練がとても大切であると改めて実感しました。また職員間の

連携が重要になり、臨機応変に対応できるように常日頃から様々な訓練を実施していかなければならないと思います。職員一人ひとりが緊急時の対応意識を持ち、それぞれの役割を実行していきます。(福田)



ラーメンを啜る栄一さん



スイーツは別腹な和人さん

(要平)

今回、予想以上の混雑により予定していた内容を大幅に変更しての活動となりましたが、滅多に体験すること事ない貴重な経験となりました。

今年、予想以上の混雑により予定していた内容を大幅に変更しての活動となりましたが、滅多に体験すること事ない貴重な経験となりました。

今年も野田小学校の皆さんと一緒に普賢登山へ参加してきました。早朝五時に八雲寮を出発し、児童、保護者の方々と共に諏訪の池まで歩きました。懐中電灯を手に持ち、元気に歩いていましたが、徐々に疲れてきたのかスピードが遅くなり、黙々と歩く姿が印象的でした。最初の目的地、諏訪の池では手作りの弁当を食べ、仁田峠まで車で移動しました。ここからが本番です。昨年も普賢登山に参加しているメンバーで小学生に負けない位の力を発揮しながら約一時間半程歩き、ようやく頂上に到着。さすがに最後は疲れていましたが、達成感を味わうことができました。野田小学校創立150周年記念の第53回目となる普賢登山でした。ほか

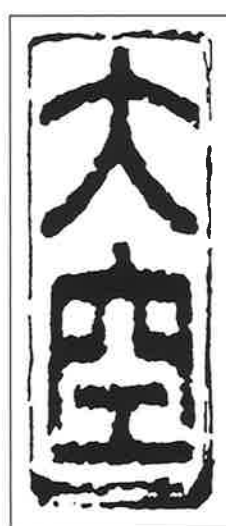


登山楽しいです♪



今年もがんばるぞ！

にわ共和国も創立20周年ということで互いに思い出に残る登山となり、今後も地域との交流を深め伝統を継承していきたいです。(松本竜平)



目指せ 山頂！

障害者支援施設 八雲寮広報部

今後の行事

12月行事
小グループ活動
利用者忘年会
クリスマス会
もちつき
帰省(予定)

1月行事
年賀抽選会
小グループ活動

青空の勇姿

ブルーインパルス

島原城築城四百年記念イベントに千代田駐からも二名が参加してきました。



見事な隊列！！

NewFace ~職員紹介~

八雲寮へ新しく仲間入りしました。宜しくお願いします。

生活支援員
本多 慎太郎生活支援員
下田 聡太郎

がんばらんば宣言

今回ご紹介するのは・・・？



池崎住男さん

カラオケが大好きな池崎さん。これからは体に気をつけて作業を頑張ります。

じゃがいも雑感！



今年も秋の行事が目白押しで、ようやくその殆どを終えたところであるが、例年同じ時期に執り行う行事や活動もいよいよ開催時期や内容を見直す必要があるようだ。

夏の猛暑にいつまでも続く残暑は、みんなの生活にも大きな影響を与えており利用者さんの衣替えもしづらい様子が伺えた。そして日中と夜間の気温差による寒暖差疲労を感じた方も多いようだ。出勤すると互いに発している「なんか怠いね」に加わっている自分もきつと疲労を感じていたのである。そして既にインフルエンザの流行期にも入っていることから、運動や温泉で冷え対策に取り組み、良好な体調の維持を心がけていきたい。(統括 白倉和裕)

活躍中！

リカベンバイク

機能訓練班に今年7月、リカベンバイクがお目見えしました。体幹をサポートしながら心臓や膝への負担を減らすことが出来るのが大きな特徴です。高齢者は加齢に伴い生理的老化が進行しADL（日常生活動作）が低下してきます。日々の活動や訓練を楽しく行いながら少しでも予防につなげていけたらと思います。

利用者の方も、今では自ら「アレするけんね」と進んでトレーニングする姿が見られるようになりました。楽しく筋トレ…最高です！（荒木・永野）



デイ雲の機能訓練班は利用者九名で活動しています。作業療法士を中心に訓練内容を考え、メンバー一人ひとりに合わせたリハビリを実施しています。まず、個人の特性を知ることから始め、どのようにしたら自分がイメージした動作をしてもらえるか考えることは難しいですが、あきらめずに繰り返して訓練することで自然と出来るようになります。

リハビリ開始当初は訓練拒否がありました

したが、今では前向きな発言が多くなり、自信にも繋がっている為、私達も嬉しく思います。今後の機能訓練班の課題としては、身体機能の維持はもちろん、訓練がマンネリ化しないよう、作業班の職員と連携を取り、集団リハの時間を増やし、利用者が充実した活動が出来よう工夫していく必要があります。

作業療法士 浮田 真帆

福祉におけるリハビリ活動

機能訓練班の取り組み



11月号 No.215



デイ雲のハロウィンパーティー

10月末にデイ雲でもハロウィンを行い、利用者の皆さんはもちろん職員も一緒に仮装を楽しみました。

余興のじゃんけんゲームでは職員と競い、勝った利用者の方へおやつが配られました。中には負けたために何度もトライされ、トリックオアトリート！と笑みを浮かべながらやっとの思いでおやつをゲットした利用者さんも…。

利用者さん全員の手元におやつが届いた後は、ハロウィンにまつわる紙芝居を職員が読み聞かせ。楽しいひと時を皆さん過ごされました。（高松）



trick
or
treat



久々の外部公演！～ヘルマンハープ～

11月3日、社会福祉法人悠久会共催のみんなのフェスにヘルマンハープ隊が出演し、島原アーケードにて演奏を披露しました。約2年ぶりの外部での公演に多少緊張しましたが、日頃の練習の成果もありうまく演奏することができました。次は、2月の活動発表会に向けて引き続き練習を頑張ります。（小笹）



生活支援員 馬場由美子さん

利用者の方に「今日も楽しかった」と言って頂ける様な毎日を過ごして行きたいと思います。



生活支援員 井上美保さん

利用者様に信頼して頂ける介護職員目指して頑張ります。

新しい職員の紹介です。



雲と虹



行事予定12・1月

- ・利用者忘年会
- ・クリスマス会
- ・成人式/年賀抽選会

※状況により延期・中止になる場合があります。

平成二十五年に法人へ就職し早十一年、入職当時は三人目の子供が保育園生でもありパート勤務から始めました。子供が続けて発熱し朝から職場へ「休みます」と連絡するのがとても気が重かった事を思い出します。年度末に理事長と面談する場があり内心は退職かなあとドキドキしていましたが、「あなたの子供の母親はあなた一人だけ子供の体調が悪い時は側にいてあげなさい」と優しい言葉をいただきました。今でもその時の事はしっかりと覚えています。現在、環境が多様化し様々な家庭の事情をもたれている方々が安心して働くには、職場の職員同士の協力が必要だと思えます。今まで私はたくさんの方々の協力に協力して頂いたため、今後は協力出来る様頑張ります。

副主任 光長まゆみ

悠炉里

共同生活援助事業所
(介護サービス包括型)
悠炉里広報誌

11月号

避難訓練を実施して

今年、島原半島に上陸した台風十号。悠炉里は地域の中にホームが六箇所存在しており、事前に災害時はスカイハイツに避難しようと決めている為、結果スムーズな避難ができた。

今回は、実際の災害時に避難をした時の取り組みと課題を利用者自治会会長の中村健治さんに聞いてみた。(大場)



台風十号によるスカイハイツへの避難

悠炉里自治会長 中村健治

・台風十号が九州横断の予報によりスカイハイツに避難することとなった。(避難訓練の位置づけ)

・夕方、もとやまスーパーに非常食の買い出しに行くと水やお茶、パン等は品薄(売切)状態であり、お一人様〇本、〇個限りの値札が目に入った。買える物を買うだけ買ってスカイハイツに運んだ。

・久しぶりのユニット全員集合に喜ぶ人、はしゃぐ人、台風におびえる人、反応はさまざまであった。

・大場主任より説明があり、カセットコンロの使い方、講習会があった。いざと云う時に全員が使えないと困るのでポンベのカセットから点火までの一連の流れを一人ずつ学んだ。

・ホーム会議を開き、避難グッズに何が必要か?紙に書きだすと、いろいろな物が不足していた。ホーム活動の時に購入することになっている。

・安全に非難し、被害を最小限に抑えるにはどうすればよいかを普段から話し合っておく必要があることを改めて感じた。

悠炉里自治会役員会

悠炉里自治会は今年度も新しい会長を中心に4名の役員と、ほぼ毎月自治会役員会議を実施しています。今年度7回目の役員会を10月6日(日)の午後から前期の反省会と後期の予定について話し合いが行われました。

前期は新しい試みとして実施したビーチボールバレー大会が大好評だったりと、役員会での活発な意見があった。それは喜びにつながったと思う。そうした意見は大変喜ばしいことです。

後期は忘年会、餅つき大会、年祝いと行事があります。自治会活動が活発に盛り上がっていき進めていきたいです。(綾部)



小グループ旅行 いざ大阪へ



二泊三日で大阪へ小グループ活動へ出掛けました。早朝五時三十分の出発予定。しかし、皆さん準備万端で五時には出発。昼前には大阪のホテルへ到着しました。到着後は「ななばの街」へくりだして、通天閣の展望台に鎮座する置物がビリケンさんの愛称で親しまれており、一緒に写真を撮ったり、幸運を呼び込むと言われる足裏をなでたりしました。

二日目は楽しみにしていたUSJ。パーク内を散策していると「ミニオンエリア」に行きたいと声があり、炎天下の中でしたがミニオンに会う為に移動。キュートなミニオンをバックに記念写真をパシャリ!最高の笑顔でした。

最終日は大阪梅田駅に行き、有名な五五一の豚まんなどを当地土産をゲット。十四時三十分飛行機に乗り込み、十八時十分過ぎに各ホームへ帰ってきました。最終日にポシエツトをなくすというトラブルがあったものの全員無事で帰ることができ、全員「楽しかった」と笑顔で話され、大満足でした。(安藤)



焼き肉パーティー

十月二十日に杜垣荘のみんなで焼肉パーティーをしました。ホットプレートで目の前で焼き、出来立てをモグモグ。お肉、野菜、ハムをたくさん食べました!大好きななり寿司や巻き寿司もあり大満足。



今後の予定

- | | |
|-----------|-------------|
| 12月8日(日) | 悠炉里忘年会 |
| 12月25日(土) | クリスマス会 |
| 12下旬 | 餅つき
冬季帰省 |

つるいど

利用者さんから「たまにはこういうのもいいですね」と声が聞かれ、また計画していきたいと思えます。(竹市)

先日、法人の秋季大運動会が清々しい秋晴れの下、行われた。感染症拡大防止での縮小や雨天で体育館での実施等、久しぶりに屋外で全員が目一杯身体を動かせたのではないかと感じた。

私の主観ではあるが、小さい時から「運動会イコール外」で実施するものという概念が根付いただけに今年の運動会は「やっぱり運動会は外だ」という気持ちを再認識できた。

法人としても、高齢化に伴い競技場所を「屋内で」という声がある中で、運動会終了後に利用者の方に感想を聞いて見ると、悠炉里の利用者は、「外で伸び伸びできて楽しかった」という「屋外で」という声が多かった。いろんな意見はあると思うが、自然な声である。みなさん今年の運動会は楽しかったですね。

主任 大場康生

我ち愛

障害福祉サービス
ワークネットやはた
広報誌 11月号

大分県別府へ

十月二十日、二十一日の二日間、大分県別府市に利用者三十六名、保護者十名、職員八名の総勢五十四名で一泊旅行へ行ってきました。

一日目は「青の洞門」や「宇佐神宮」、豊後高田の「昭和の町」を散策し、買い物や食べ歩きを満喫しました。宿泊施設に到着すると、真っ先に温泉へ。別府温泉を堪能し、日頃の疲れを癒されました。

お楽しみの宴会では、カラオケやゲームで盛り上がり、保護者の方ともいろんな話をする事ができ、楽しい時間を過ごしました。二日目は「うみたまご」へ。セイウチやイルカのショーを観たり、お土産コーナーで買い物をされたりと、皆さん楽しく過ごせたようでした。

一泊旅行は、明日からの作業意欲へと繋がります。また来年も一泊旅行が開催できるよう利用者、職員一同頑張っていきましょう。

(松尾 浩道)



カラオケでは、ステージに上がり盛り上がりました



「うみたまご」でのショット

昼食後の楽しみ♪

昼休みに、毎回繰り広げられるのはトランプ大会。ワイワイ、とても賑やかです。切り札や神経衰弱、七並べ、一番の人気は不動のババ抜きです。

「今度は私が勝つぞ〜」「負けないぞ〜」と笑い声が絶えません。午後の作業を頑張る為に大切な休憩時間です。(古賀)



紙加工班のお仕事

「リユンヌアンブラッセ」では、菓子箱折りと素麺の加工作業に取り組んでいます。

利用者の方もいろんな工程に取り組める様に試行錯誤しながら、毎日頑張っています。

素麺と聞くと夏を思い浮かべますが温かい「にゅう麺」もおすすめです。体を温めて寒い冬を過ごしましょう。(竹市)



袋詰めした素麺の密封作業

ワークネットやはたの今日のこの人

今回は「石橋 恵美」さんです。

Q趣味は？

「音楽鑑賞とカラオケです。カラオケでは秦基博さんの、ひまわりの約束をよく歌います」

Q興味のあることは？

「始めたばかりですが、英会話の勉強をしています。外国人と会話できるようになりたいです」

紙加工班では、主に菓子箱折りを頑張られています。

これからも、元気になってきてくださいね。



散歩道

慢性的な人材不足が叫ばれるこの福祉業界。当法人も例外ではありませんが、今年度は十数名の方が入職され、非常に安堵しております。しかし、南島原市の人口推移を見てみますと、ここ三十年は見事に減少しており、今後も減少予測との事。県内では、減少率が対馬市に次ぐ二位。あと数十年で破綻するのではと心配です。

福祉を必要とされている方がいる限り事業をやめるわけにはいかないのですが、職員が減ると事業収入も減り事業継続が困難になっていく法制度。このような地域性を考慮した国の制度作りや、過疎に歯止めをかける自治体の取り組みに期待するしかありません。

(酒井 亮裕)



力を合わせて玉入れ競技



何が入ってるかな♪宝釣り

これは、これ

石川画伯作
「クリスマス」



「これからもがんばります」

他山の石

デイ雲柿の木 所長 原口由紀子

施設を利用して頂く方々のごほとんどは、ご家族様なら電話家族や業者様から、ありがたいことや送迎時に直接伝えまじし、業とに盆暮れに多くのお心遣いの者様なら葉書を送ります。品を郵送や送迎時に直接頂戴することがあります。また、近隣の方から野菜や果物を頂いたりもします。頂いた品物をどう管理するかは施設によって違いはあると思いますが、当施設では、受け取った者が主任又は統括に報告し、品物を渡し、その後は施設長へ報告して必ず複数で情報共有します。仮に私（施設長）が先に受け取ることがあれば、部下へ説明して渡します。その際、お礼状の送付か、直接電話を誰がするかを決めて、すぐに対応します。

感謝



その日常に対する感謝の意であるということを感じて施設長はしつかり自覚しなければなりません。

以前、私が仕えた施設長には個人の品として持ち帰る方もおられたので、施設長という立場から、個人が持ち帰るという姿を見せてはダメだという教育を理事長から受けた時は、衝撃的で、以来深く心に刻んで行動しています。実際、自分が施設長になってか



公益社団法人食器容器環境美化協会主催の『2024年度アダプト・プログラム助成制度』に応募し、見事、助成を頂くことが決定しました。河川アダプト時に使用する、ビブスとトングを支給していただき、早速、今年最後のアダプト活動で使用しました。

今年の暑さは異常で、いくら川で水辺の作業だったとしても、身体中の毛穴という毛穴たちから汗が滝のように流れでるほどでした。来年も暑いのかなあっと、不安もありますが、新しく頂いたビブスとトングを使って、今まで以上の作業ができたらいいなと思います。（佐藤）

言の葉



12月の行事

- 14日 利用者忘年会※
- 21日 ゆず湯
- 27日 餅つき

※印は参加費あり



運動会でのコマ・今年はリレーで念願の優勝！

いい場だな♪ あははん

10月20日、世間はブルーインパルスで盛り上がっている中、飛雲荘の皆さんを連れて島原温泉ホテル南風楼へ温泉外出に行ってきました。到着し、家族風呂へ案内してもらおうと、目の前に海が見え、眺めも良く、お湯も泡風呂でテンションが上がられていました。体を洗った後、ゆっくり湯舟につかり、景色を眺めたり、おしゃべりをされていました。

入浴後は用意してあった飲み物を自由に選び、飲みながら「気持ち良かった」と口々に話されていました。

ゆっくり同じホームの利用者さん同士で交流を深められるよう、大浴場ではなく、貸し切りにして本当に良かったです。又、機会を作って連れて行きたいと思いました。（下田・苑田）



ようこそ 柿の木へ☆



城谷七海
調理員



渡邊圭一
世話人



新しい仲間です！
どうぞよろしく
お願いいたします。

今年、法人にとって二十周年を迎えた区切りの年でした。私にとっては体調不良が多く、踏ん張りの年だったなと実感しています。日に日に二十四時間が短く感じるようになっていますが、今年するべきことは終わらせて、きれいな身体で来年を迎えられるよう、残りの日々を乗り切りたいと思います。（恵理）

郷土の偉人

歴史に埋もれた結核医 末永敏事③

口之津歴史民俗資料館長 松本 昇

2. 内村鑑三との出会い

<敏事の略歴>

- | | |
|-------------|--|
| 1899(明治32)年 | 長崎中学校入学(現在の県立西高等学校) |
| 1902(明治35)年 | 同中学校中退、その後、青山学院中等部へ。在学中に内村鑑三(1861-1930)に師事、大きな影響を受ける |
| 1906(明治39)年 | 青山学院中等部卒業 |
| 1908(明治41)年 | 長崎医学専門学校(現在の長崎大学医学部) |
| 1912(大正元)年 | 同専門学校卒業。同年、父道伯死去 |
| 1914(大正3)年 | 台湾総督府台北医院に医師補として勤務。医学雑誌に論文「萎黄病の二例」を発表 |

青山学院中等部に入学した敏事が内村鑑三にどのようにして出会ったのか定かでないが、次第に彼に惹かれてゆく。内村は、聖書をよりどころとする無教会主義を唱えたことで知られるキリスト教思想家である。内村は東京外国語学校(現在の東京外国語学校)を中退して札幌農学校に入学し、そこでキリスト教に改宗する。農学校を首席で卒業すると、米国に留学する。内村はペンシルベニア大学で医学を学んで医者になるつもりであったが、米国にいた新島襄の勧めでマサチューセッツ州のアマースト大学に入学し、伝道者になることを目指した。そのハートフォード神学校に進んだものの、神学教育に失望し、1888(明治21)年に帰国した。



内村鑑三

帰国後、第一高等中学校の教師だった1891(明治24)年に、内村は教育勅語奉読式で最敬礼しなかったことによりいわゆる「不敬事件」を起こし、それが社会問題になったことがある。

敏事が青山学院中等部時代に会った頃の内村は、東京角筈の自宅で聖書研究会を開いていた。彼のまわりには弟子たちが集まるようになり、森永玲氏によれば、「小山内薫、志賀直哉、有島武郎らも出入りした」という。

また、当時の内村は、日露戦争が起こりそうな不穏な状況のなかで、戦争は人を殺す大罪悪であるという立場に立って、反戦を主張した頃でもある。反戦と聖書の共通項として想起されるのが、十戒の「汝、殺すことなかれ」である。元々、キリスト者の身は神のためにあるのだが、後に反戦を唱える敏事にとって、この十戒の教えは大切な言葉だったにちがいない。(つづく)

※キリスト教でいわれる「自殺は罪である」は新約・旧約聖書に由来するものではないし、自殺したユダに関係するものでもない。原始キリスト教時代には、天国に早く行くことが魂の救済の道だと勘違いしたキリスト教徒のなかには、ライオンに喜んでかみ殺されたり、十字架に縛られて笑いながら死んでいったりする者がいた。次第にそうした人々が増えていった。ローマカトリック教会の司教であり神学者でもあったアウグスティヌス(354-430)は、そのことを憂い、自殺は罪である、自らを殺す者は殺人者であるとしたのである。その場合、彼の念頭にあったのは、おそらく十戒の「汝、殺すことなかれ」と「汝の父母を敬え」であっただろう。

会報誌「手をつなぐ親たち」は昭和31年創刊、平成5年「手をつなぐ」に名を変え現在も発行されている。

創刊号を所蔵するのは一碧文庫他、一部の大学図書館だけである。



10.26 一碧文庫にて

口之津開港の史実を解く課題は、口之津の港に関するイエズス会の報告の次第であろう。それは、わが国の南蛮交易の港の開港に関しては、ポルトガル政府からイエズス会がその橋渡しをしていた史実がある。しかも派遣された司祭の中で束ねる要職は大きな権限を持っていた。差し詰め、ザビエルが日本を去った後のイエズス会の舵取りは、トルレス神父はその要職にあり、アルメイダはひたすらにその要望に応え飛びまわった逸話が残されている。

書簡62 一五六四年十一月十五日リス・フロイスが日本の島原と言う町から同日本のコスメ・デ・トルレスに宛て、都への途上に認めた書簡にアル

メイダの行動範囲の逸話として、次の記述が残されている。それによれば、フロイスは島原に三日間しか滞在していないが、島原について、「現世のことから始めれば、この地はリス・デ・アルメイダ修士から日本で体験したことについて聞いたところに拠れば日本にある中で最も爽快にして位置も最良の町の一つである。入江には百席近い大船があり、それらはほとんどがガレー船である。殿が教会のために我々に与えた城は、日本で見たなかで最良の一つであり、上部は木材で囲い、下部は地所全体を海が取り巻いており、街の中央に位置している。すなわち、キリシタンがあらゆるこちらから集まるころにあつて、同所には何人の家も地所もない。またそこからまち全体と港の入り口が見渡せる。教会用の木材は、真の友人にして、初期の善良なるキリスト教のように信仰に甚だ熱心なドン・ジャンの家に置かれている(p.255)」と指摘している。

この記述はイエズス会の平戸・横瀬浦・福田で

社会福祉の父 糸賀一雄の一碧文庫

糸賀一雄(1914-1968)生誕百年記念講演会が十月二十六日滋賀県草津市近郊の市民会館で開催され参加した。メインテーマは「糸賀一雄の輝くものを継承」であった。筆者は糸賀先生が昇天される三カ月前に、雲下でお話を聞くことができた。まだ私が独身で奉職して間もない頃であった。長崎県からは、県

福祉文化史で読み解く

口之津の開港の由縁

口之津開港の史実を解く課題は、口之津の港に関するイエズス会の報告の次第であろう。それは、わが国の南蛮交易の港の開港に関しては、ポルトガル政府からイエズス会がその橋渡しをしていた史実がある。しかも派遣された司祭の中で束ねる要職は大きな権限を持っていた。差し詰め、ザビエルが日本を去った後のイエズス会の舵取りは、トルレス神父はその要職にあり、アルメイダはひたすらにその要望に応え飛びまわった逸話が残されている。

メイダの行動範囲の逸話として、次の記述が残されている。それによれば、フロイスは島原に三日間しか滞在していないが、島原について、「現世のことから始めれば、この地はリス・デ・アルメイダ修士から日本で体験したことについて聞いたところに拠れば日本にある中で最も爽快にして位置も最良の町の一つである。入江には百席近い大船があり、それらはほとんどがガレー船である。殿が教会のために我々に与えた城は、日本で見たなかで最良の一つであり、上部は木材で囲い、下部は地所全体を海が取り巻いており、街の中央に位置している。すなわち、キリシタンがあらゆるこちらから集まるころにあつて、同所には何人の家も地所もない。またそこからまち全体と港の入り口が見渡せる。教会用の木材は、真の友人にして、初期の善良なるキリスト教のように信仰に甚だ熱心なドン・ジャンの家に置かれている(p.255)」と指摘している。

の事件、及び、玉名(高津)から口之津へイエズス会の布教事務所が口之津へ移管された事を示唆しているが、口之津港は、シナや北前船の交易港としてイエズス会が開港する以前から港の機能は発揮されていた。従って、福祉文化史の視点では、一五六二年開港とた記念碑をポルトガル船の以外の船舶に對しての開港であると考えるのが妥当である。

さらに、イエズス会は、港と教会と船から見える十字架を重視している側面があり、口之津の場合は、それらの史実の整合性が課題である。



糸賀一雄著「この子らを世の光に」

この子らに世の光をという、子どもを主体とし、子どもを愛する人々の思想を与え続けている。

社協の井村さん、みさかえの園の梁田さんと三人であったが二人は故人になられているので、現在長崎県内で知っているのは私一人かも知れない。